

ニッキン投信情報の連載『黄金時代到来！？なるほどインド講座』の第11弾が公開されました！

ニッキン投信情報（2025年4月14日号）にて、弊社取締役 営業マーケティング本部長の面谷 祥友による連載『黄金時代到来！？なるほどインド講座』の最新記事が公開されました。

第11回目となる本紙では“インド株 今売るべきか、買うべきか”をテーマとして寄稿させて頂きました。

ニッキン投信情報 2025年4月14日発行 第1360号 (1)

ニッキン投信情報

発行所 日本金融通信社 © 2025 〒102-8677 東京都千代田区九段南4-3-15 電話 03(3281)9871
週刊（毎週月曜日発行） 購読料1ヵ年 165,000円(税込)

CONTENTS

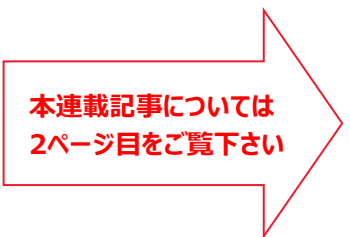
06 運用会社別・窓販ファンド別の設定・解約状況（2024年）
三菱UFJ「eMAXIS Slim 全世界株」が2兆3,548億円で年間資金増加額1位

順位	運用会社	ファンド名称	資金増加額 (億円)
1	三菱UFJ	eMAXIS Slim 全世界株(オールカントリー)	2,354,873
2	三菱UFJ	eMAXIS Slim 先進国の先進国株	1,983,880
3	アライアンス	アライアンス・グローバル・インベスメント	1,121,802

03 転換点を迎える投資信託の銀行窓販
04 投資窓販数値に聞く 福島銀行
須賀川支店 個人支援課 個人コンサルティング室 吉成 朱帆さん
資産運用の「おもしろさ」伝える
07 ファンド列島 北海道
NISAで投資販売40.6%伸長 キャンペーンなどで顧客ニーズ喚起
05 新規設定額ランキング（2025年3月設定）
ニッセイ「まもるとふやす2」が102億円で1位
72 新規募集・設定ファンド
アムンディ「アムンディ・インデックスシリーズ」日本・高配当株 など9本
74 販売会社情報 三菱UFJ信託総、七十七、伊予、徳島大正、豊和、中央労金
76 運用会社情報 三菱UFJ、大和、シュローダー、イーストスプリング
77 月間マーケットウォッチ
米相互関税は結局「一律」 日本には想定よりも厳しい税率
大和証券 投資情報部 ストラテジー課 シニアストラテジスト 堀井 秀司
78 黄金時代到来！？なるほどインド講座（第11回）
インド株 今売るべきか、買うべきか
イーストスプリング・インベストメンツ 取締役 営業マーケティング本部長 面谷 祥友
79 シン・直感知新のつみたて投資（第80回）
プライベートアセット投資は拡大するか
日本つみたて投資協会 代表理事 太田 創

「ニッキン投信情報 別冊 金融機関別窓販ファンドの騰落率一覧」は、下記URLまたはQRコードからデータを取得できます。 <https://www.nikken.co.jp/toushin/touraku.html>

NIKKIN INVESTMENT TRUST NEWS



<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

連載



昨年9月の最高値以降、インド株は低調な展開が続いています。今年初めはインド株の下落理由についての質問が多かったのですが、最近では「そろそろ買い場では？」といった相談が増えています。そこで今回は「インド株今売るべきか、買うべきか」をテーマに見ていきたいと思えます。

中長期の見通し不変であれば、
短期的調整は買い場

結論としては、(もちろん個人的な見解にはなりますが)「中長期的な見通しが変わらず強気である中、景気サイクル等の短期的な要因で株価が調整しているのであれば、投資のエントリーポイントとして捉えるべき(買いを検討すべき)」です。少なくとも中長期投資の観点からは売りのタイミングではないと考えています。

歴史的に見て、インド株は市場のセンチメントが弱い時に投資を積み上げることが最良のリターンに結びついてきた市場です。インドの代表的な株価指数であるNifty50の2000年以降のデータでは、25年のうち22年で年間最大10%超の下落を経験しながら、25年のうち20年は年間騰落率がプラスとなっています。短期間で下落し、その後短期間で回復を繰り返しながら長期で上昇してきた市場です。タイミングを取るのが難しく、出たり入ったり(売ったり買ったり)では上昇タイミングを逃すことになりかねず、非効率です。本連載Vol. 6 (24年11月11日号掲載)でも、「いかに長くインド株式市場に居続けることができるか」とお伝えした通り、多少の変動があろうとも長期投資の姿勢を維持することが大切です。

減税と利下げの効果は時間差で期待、
大型株は割安水準

2月の重要イベントとして国家予算案での所得税減税と5年ぶりの利下げがありました。2月1日発表の国家予算案では所得税の非課税対象拡

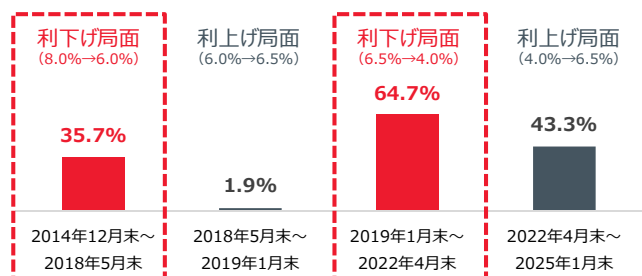
大がアナウンスされ、インド国民の大半が恩恵を受けると見られることから、1兆ルピー(3月25日時点:1.76兆円)相当の消費押し上げ効果が期待されています。また、2月7日にはインド準備銀行(中央銀行)がおよそ5年ぶりとなる政策金利の利下げを発表し、中長期的に景気支援する姿勢を示しました。これらはいずれも時間差はあるものの、実体経済に効果が表れれば、徐々に株式市場も勢いを取り戻すでしょう(図表1参照)。

また、バリュエーションの観点からは、割高感のある中小型株には引き続き警戒が必要ですが、大型株の予想PER(株価収益率)は過去5年平均以下の水準まで低下しており、投資妙味があります。これらのことから、市場のタイミングを言い当てることは難しいものの、転換点は近いと考えています(図表2参照)。

一時は米トランプ政権への期待から米国へ資金が還流しましたが、米経済の停滞を懸念する見方も増えています。米株一極集中のポートフォリオは見直しを余儀なくされる可能性が高く、その際に改めて投資先として見直される市場の筆頭がインドではないでしょうか。

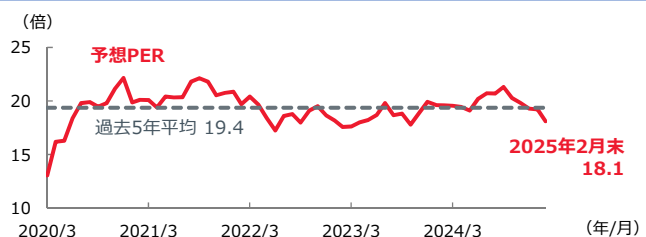
(執筆: イーストスプリング・インベストメンツ
取締役 営業マーケティング本部長 面谷祥友)

図表1 過去の利下げ局面ではインド株は大きく上昇



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成
※インド株: Nifty50指数、現地通貨ベース、トータルリターン(グロス)、月次
※利下げ局面は、利下げ開始前月末から利上げ開始前月末までで計算

図表2 インド株(大型)のバリュエーションは過去平均以下



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成
※インド株: Nifty50指数の過去5年(2020年3月末~2025年2月末まで、月次)の予想PERの推移
※予想PERは1年先の1株当たり利益予想に基づくもの

本稿は執筆時点での情報に基づく筆者の個人的な見解であり、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の公式見解ではありません。